

往復

小麦粉のような手触り

吹く風は無表情な動作をする

なぞることは果てしない　　生活するだけの日々
現代的たる現在は輪郭も見えない
ねじれたものもなく伸びやかに
健康的な装飾だけが溢れて整列している

予想しうる涙
愁嘆場は見るに堪えないドラマ構成
落ちる、ほら今落ちる
タイムキーパーが頷く

平坦だからじゃない
単調だからじゃない
そうじゃない
十分過ぎるほど起伏に富んでいる

今日の前に広がる世界こそ、狂気の果てに辿り着いた
疑問から逃れるための監獄というものだ
そして誰かがまた狂気からやり直せば　　と
破壊からはじめようと企んでいる

同じ地点の間を往復することで
同じ起伏を体験できる、が...
プログラム
そう...プログラム

(2001.9.26)